

延岡市が環境デザイン賞

音騒工学会 日本制御 5/16 城山の鐘の 鐘守制度 根付いた文化を評価

城山公園「城山の鐘」
の鐘守制度を継承・継続



午後5時の時鐘を打つ日高康彦さん。妻の真理子さんとも8代目鐘守を務める

している延岡市の取り組 法人日本騒音制御工学会
みがこのほど、公益社団「の環境デザイン賞を受け

た。鐘守自らが突く鐘の音の響きが、市民に時を知らせてきた長い歴史と、郷土に根付いた文化が評価された。

同会は、騒音・振動およびその制御に関する学術・技術を発展・普及し、生活環境の保全と向上に寄与することを目的として、1976年に設立した団体。91年に環境庁（現環境省）所管の社団法人に認可され、2011年4月から公益社団

法人としてスタートした。環境デザイン賞は、都市環境や住環境、作業環境、車室内環境などの快

適性向上のための計画や実施事例、また、これらに関連する研究や技術開発などに該当する音・振動環境の改善に優れた業績を挙げた法人やグループ、個人に贈られる。受賞理由として、全国的に鐘が時を知らせる役割を終え、機械で自動で鳴らしたり、騒音苦情が寄せられる事例などを聞く中で、鐘守制度を残し、継承している姿勢を評価。現在、鐘守を務める日高康彦さん（55）、真理子さん（50）夫妻にも頭が下がるとしている。

市民に時告ぐる鐘として親しまれる現在の城山の鐘は2代目。初代は1656年に延岡藩主有馬康純が今山八幡宮に寄進したもので、1877年の西南戦争で焼けた城山の太鼓に代わり翌年に今山から移され、1963年2月に2代目の鐘に代わるまで時報鐘として鳴り続けた。

鐘守は1878年に初代の稲田藤三郎氏に始まり、1996年6月10日